



「やさとっ子」だより

くめざす子どもの姿： かしこい子 あたたかい子 たくましい子>

全国学力・学習状況調査の結果について（前）

去る4月17日（火）に、6年生を対象として、全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果についてお知らせいたします。学力調査は、国語A・B、算数A・B、理科の3教科・5種類の調査が行われました。

A問題 主として「知識」に関する問題です。（身につけておくべき基礎的な知識や技術）

B問題 主として「活用」に関する問題です。（知識や技能を実生活の場に活用する能力）

同時に、学習状況についても、質問形式での調査がありました。なお、この調査は、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。また、対象学年は6年生ですが、その結果については、課題となる点をしっかりと分析した上で、全学年の学力向上に向けた取組に生かしていきたいと思えます。

学力調査についての分析から

本校の平均正答率は、残念ながら、国語・算数・理科の3教科とも全国平均の正答率を下回る結果となりました。とりわけ、国語・算数のA問題は、全国平均をやや下回った程度でしたが、国語・算数のB問題及び理科については、全国平均の正答率に対して、A問題以上に下回った結果となりました。以下に、校内で分析した主な内容について報告させていただきます。

【国 語】

(1) A問題について

- 「話すこと・聞くこと」では、全国平均正答率を上回ることができました。この問題は、図書館までの道案内をする場面での会話に関するもので、会話の内容を読み取り、選択肢中から正答を選ぶという問題でした。普段の授業において、聞き手を意識させながら発表をさせており、そのことがこの結果につながったのではないかと考えます。
- 「書くこと」では、全国平均正答率を大きく下回る結果となってしまいました。物語文の文章構成に関する問題が出題されましたが、文章構成の中にある作者の工夫を読み取り、選択肢から回答する設問に課題が見られました。また、問題の選択肢には、「構成」や「展開」・「結末」等、日常的に使わない語句が多く使われていたことも正答率が下がった理由として考えられます。
- 主語と述語の関係を読み取り、つながりが合わない文を選んで正しく書き直す問題で、間違った文を選ぶことはできていたのですが、正しく書き直せない児童が多くいて、主語・述語の関係を正確にとらえる点で課題が見受けられました。

(2) B問題について

- 特に、課題として挙げるのが、「書くこと」に関して、学級での話し合いを受けて話し手の意図をとらえつつ、自分の意見と比べながら考えをまとめる問題です。問題には、「文章の中に出てくる人物の意見を取り上げる」「司会が示すテーマについて書く」「80～100字で書く」という3つの条件が示されていました。こういった複数の条件が示されていた点も児童の解答を難しくしたと考えられます。

【算 数】

(1) A問題について

- 特に正答率が低かったのは、「 $12 \div 0.8$ の式で求められる問題をすべて選ぶ」という問題でした。4つ選択肢があり、そのうちの2つが正答、残りは乗法になるものでした。1つは選べるものの、2つとも正しく選べた児童が少なかったようです。
- 「分度器を用いて、 180° より大きい角の大きさを求める」問題も、全国平均正答率を大幅に下回りました。分度器の目盛の見方は分っているものの、 180° を超えた部分の角を測るための分度器の扱い方に課題が見られました。

(2) B問題について

- 最も課題として挙げられるのは、「図形」の問題です。特に、敷き詰め模様に関する問題（敷き詰め模様の中から図形を見出し、その構成要素や性質を基に、すきまなく敷き詰めるためには、1つの点の周りに集まった角の大きさが 360° になっていることを記述する問題）は、正答率が大幅に全国平均を下回りました。
- 「32、40」の二つの数の和（72）が9の段の数になるわけを分配法則を用いた式に表す問題が出題されましたが、示された数字を $32=4 \times 8$ 、 $40=5 \times 8$ として考えることに気づく児童が少なかったようで、正答率が大幅に全国平均を下回りました。

【理 科】

- 「生命」に関する問題は、全国平均正答率を上回っていました。具体的には、人の腕が曲がる仕組みについて示された模型を使って説明できる内容を選ぶ問題等、骨と骨のつながり目について科学的な言葉や概念の理解度とともに、人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる点で、良好な結果を得られました。
- 主だった課題として挙げられるのは、「物質」に関する問題でした。「ろ過の操作における知識を問う問題」では、提示されたるろ過操作の誤りに気づき、正しい操作の仕方を選択肢から選ぶ問題が出題されましたが、器具の操作にどのような意味があるのかという点や、ろ過する液がろ紙を通過することでろ過されるという点で、理解の度合いに課題が見受けられました。
- 同じく「物質」に関する問題で、海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に、判断した内容を選ぶ問題が出ましたが、2つの異なる方法の実験結果を分析して考えることに課題が見られました。

改善に向けて

【国 語】

- 説明文であれ物語文であれ、文章の構成や表現の工夫について、これまで以上に、授業の中で子どもたちに着目させていくようにします。また、書く活動では、字数制限をするなど、一定の条件設定をした中で書く機会を取り入れていきます。
- 漢字の読み書きでは、単に漢字を正しく読み書きできるようにするだけでなく、関連して、反対語や類義語、熟語等も学習することで語彙を増やすようにします。

【算 数】

- 数学的な思考力を高めるため、問題解決的な学習を多く取り入れ、単に問題の解き方のみを習得するのではなく、思考の過程を大切にしていきます。
- 特に積み上げを要する教科であるため、学習内容のつながり（系統性）を押さえ、子どもたち一人ひとりのつまずきに応じた指導に努めます。

【理 科】

- 実験の際に、これまで以上に、器具の名称や使い方の習得とともに、実験結果に基づいて児童が主体的に考察するような取組を進めていきます。



「やさとっ子」だより

くめずす子どもの姿： かしこい子 あたたかい子 たくましい子>

全国学力・学習状況調査の結果について（後）

全国学力・学習状況調査では、6年生は、国語・算数・理科の問題の他に、児童質問紙という調査にも取り組みました。また、学校も、学校質問紙という調査に答えました。

本紙面では、そこからうかがい知ることができる児童及び学校の実態・状況についてお伝えします。

学習状況調査についての分析から

1 児童質問紙について

学校や家庭での学習状況に関する質問事項に、児童自身が回答した結果を集約したものです。全国平均の割合と比べ、特に望ましい良好な結果となったのは、主に、以下のような質問事項でした。数字は、4段階の答えのうち、はっきりと「当てはまる」・「している」と答えた児童の割合です。※（ ）内の割合は、全国平均です。

- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか 55.4% (42.5%)
- ・5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか 53.6% (40.1%)
- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか 67.9% (35.9%)
- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか 58.9% (36.1%)
- ・地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか 25.0% (18.1%)
- ・算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか 67.9% (56.8%)
- ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか 48.2% (37.2%)

逆に、全国平均の割合と比較して、課題と思われる項目は、主に、以下のとおりです。

- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか 23.2% (30.7%)
- ・算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか 35.7% (44.2%)
- ・算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか 30.4% (39.7%)

以上のことから、四日市版コミュニティスクールの取り組みを生かし、児童は地域につながりを感じ、地域の中で育ってきていると読み取ることができます。しかし、学習に関しては、まじめに取り組んでいるものの、求められる力まで到達するまでに満足してしまったり、諦めてしまったりする実態がうかがわれます。

2 学校質問紙について

学校として、調査対象学年（6年生）の児童に対して、前年度までに行った取組について、アンケート形式で自己評価する調査です。全国と比べて良好な項目もあれば、不足し

ている項目もありました。分析した概要は以下のとおりです。

先でも触れましたように、本校は四日市市版コミュニティスクールとして、地域の人材・施設の活用に積極的に取り組んでいます。校内外の様々な取組に学校と地域が密接に結び付き、協同して行う授業も数多く組み込まれています。

また、家庭学習については、1年生から6年生までの家庭での学習の進め方や内容を示した「家庭学習の手引き」を作成し、毎年1年生保護者に配付して協力を呼びかけています。個に応じた指導、算数科の指導法については、少人数授業の活用や、夏休みに5・6年生を対象とした算数学力補充教室を毎年行ってきました。

一方で、今回の学力調査では、日頃の取組が成果として表れていないように思います。質問紙の中で、次の項目に対しては、まだまだ不十分であるとの評価をせざるをえません。

- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか
- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか
- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取り組みとして、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか

以上のことから、児童に対して、私たち教職員がもう一步踏み込んで指導したり、求めていったりする姿勢が必要ではなかったかと反省させられます。

学習習慣の確立及び学力補充について

例年、年度初めに、学習習慣を身に付けさせるうえで、校内で検討し、下記のような取組を考えています。

- ・昨年度に引き続き、夏休みには「生活習慣チェックシート」を課題に加え、長期休暇に入って生活リズムが大きく変わるタイミングも大切にしました。児童が提出した「生活習慣チェックシート」を見せていただきますと、就寝時間と起床時間はやはり連動しており、寝るのが遅い児童は起きるのも遅くなっていました。通信等で結果を知らせることにより、長期休暇であっても生活リズムが崩れないよう、ご家庭に協力を呼びかけるようにします。
- ・家庭学習の手引きを1学期に1年生と転入時の保護者用に配付しています。また、児童用も毎年全児童に渡し、保護者と子どもの意識高揚を図っていきたいと考えます。
- ・今後、自主学習ノートを活用し、宿題以外の学習にもチャレンジして取り組ませることも考えていきます。

学力補充に関しては、夏季休業期間に入ってすぐの3日間、参加を希望する5・6年生を対象に、算数に絞って学力補充教室を開いています。児童本人の希望を尊重する形で、習熟度別のような3つのコースに分けて行っています。指導については、5・6年の担任だけでなく、全教職員が分担して指導に入ります。加えて、朝明中学校の先生方にもお手伝いいただいています。今後、学力補充に関して、より成果の上がるように、様々な角度から検討を加えていきたいと考えています。

最後に

今回の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、学校全体で、確かな学力の育成に向けて強力に取り組を進めていかなければと決意を新たにしております。ご家庭でも、家庭学習への声掛けなど、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。